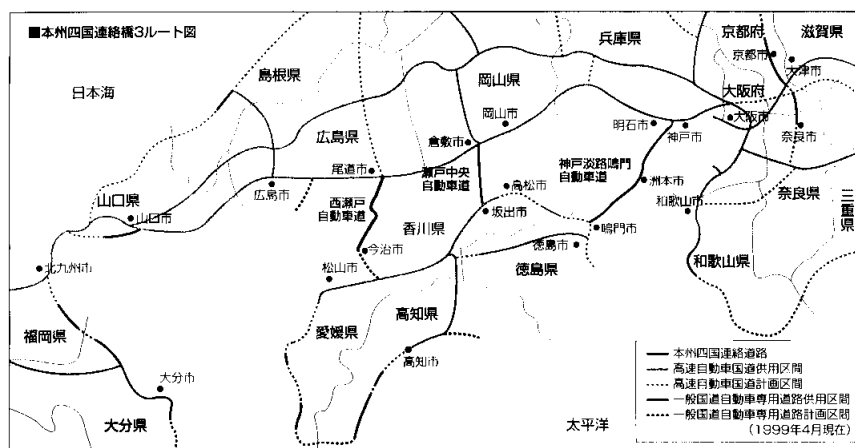


エクスカージョン報告

全国大会の3日目、9月24日から終日、本州と四国を結ぶ連絡橋の1ルートである『瀬戸内しまなみ海道（西瀬戸自動車道）』を対象として、架橋技術と沿道地域の視察を目的としたエクスカージョンを実施した。これは、このたびの全国大会は中国支部の責任のもとで開催したが、併せて四国支部との連携・協力の得ていること、及びシンポジウムA「地域間の交流・連携と新たな地域創生」の主旨を反映させることを意図したものである。参加人数は熊田禎宣会長、廣松毅常務理事をはじめ24名が参加し、あわせて本州四国連絡橋公団より鈴木幹啓部長（第三管理局保全部）に特別参加をいただき、現地説明の労をいただいた。なお、エクスカージョンにおける食事や交通などの実務については、日本旅行広島支店に世話いただいた。

本州と四国は1988年に児島－坂出ルート（瀬戸中央自動車道）が供用され、1998年に神戸－鳴門ルート（神戸淡路鳴門自動車道）が開通し、そして1999年の5月1日に尾道－今治ルート（西瀬戸自動車道）が供用された。（図1参照）

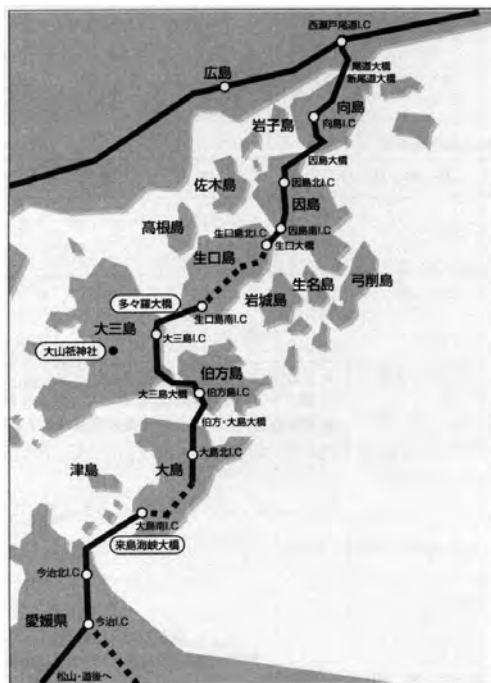
図－1 本州四国連絡橋ルート



本州四国連絡橋の事業調査が始まったのは1959年のことであるが、それ以来、40年の歳月を経てこの事業が概成した。これらの架橋建設は、ひとつには、東西方向の幹線航路と南北方向の生活航路の交錯を避けることをねらいとして、3ヶ所の航行上危険な海峡に建設されたものである。しかし、これらは同時に四国を本州と結びつけ、四国地域の発展、さらには西日本全体の一体的な発展にも寄与できるものと大きく期待されている。

このたびのエクスカージョンで対象とした広島県と愛媛県を結ぶ尾道-今治ルートは、『瀬戸内しまなみ海道』の愛称でよばれ、地元地域では公式名称よりもこの愛称の方が普及し、案内標識においても愛称が用いられている。このルートは、瀬戸内海においてもっとも多島美に優れ、また地理的にも瀬戸内海のちょうど中央に位置する芸予諸島（安芸地域と伊予地域を結ぶ島嶼地域）を「島波（しまなみ）」にたとえ、それぞれが独自の歴史文化を培ってきた多くの島々をたどる全長約 60 km のルートである。（図 2 参照）

図-2 瀬戸内しまなみ海道ルート図



当日の行程は、早朝からまれにみる秋晴れであった。全員が大型バス 1 台に同乗し、午前 8 時以降に広島市内を出発して、尾道から『瀬戸内しまなみ海道』に入り、今治までの往復を行程とした。帰路において、順次、JR 今治駅、JR 福山駅、広島空港、JR 広島駅によって帰途についていただくこととした。（表 1 参照）

表-1 エクスカージョンの行程

月/日	行	程
9/24 (日)	貨切バス	〈しまなみ海道〉
	広島市内ホテル	広島IC — 福山西IC — (尾道大橋) —
	8:00~8:30	
	(因島大橋) — (生口橋) — 多々羅大橋 (現地説明) —	10:30 11:10
	大山祇神社 (昼食) — (大三島橋) — (伯方・大島大橋) —	11:30 13:00
	しまなみ海道経由	
	来島海峡大橋 (現地説明) — 今治駅 — 福山駅 —	13:40 14:20 14:50 16:50
	広島空港 — 広島駅新幹線口	17:50 19:00

(実際には、JR 今治駅での下車希望者がいなかったため、来島海峡 S A で U ターンした。) 往路の途中では、架橋技術の粋を集めてできたと言われる世界一の斜張橋である「多々



写真1 多々羅大橋（大三島・多々羅総合公園より）



写真2 来島海峡大橋の全景（大島・亀老山展望台より）

羅大橋」(写真1参照)と、これまた世界初の三連吊橋である「来島海峡大橋」(写真2参照)についての技術視察を行い、その間、瀬戸内海における航行などの守り神を象徴する大山祇神社に参拝した。(写真3参照)

この神社の国宝館には、国内での国宝・重要文化財指定の武具・甲冑の約8割が収蔵されている。



写真3 参加者記念写真（大祇山神社にて）